

タイトル

痴呆症をもたない65歳以上の高齢者のための個別的援助

レビューワー

Montgomery P, Mayo-Wilson E, Dennis J

概要

個別的援助は、身体障害をもつ成人に対して行われる週20時間以上の有料のサポートであるところでは定義する。このレビューは個別的援助の効果を、65歳以上の成人に対して行われる、他のいかなる形のケアとも対抗させる形で調査した。網羅的な文献調査によって、選択基準を満たした4つの研究が特定され、当該研究には1642名の参加者が含まれていた。その研究が示唆するのは、概して他のサービスに比べて個別的援助の方が好まれるかもしれないが、他のケアモデルを好むものもいるということである。本レビューは、個別的援助が特定のサービス受給者と彼らのインフォーマルなケア提供者に対して何らかの利益をもたらすかもしれないことを示している。有料の援助はおそらくインフォーマルケアの代わりになるだろうが、代替案よりも政府の負担になるかもしれない。しかし、サービス受給者と社会にかかる相対的トータルコストは不明である。

要約

背景

65歳以上の人々の間で障害は高い割合で存在しており、西側諸国では高齢者の人口が増加している。多くの国々では個別的援助、すなわち、コミュニティに暮らす人々に対する、最低週20時間以上の医療専門家以外の有給のスタッフによる個別的サポートが提供されている。

目的

障害を持つ高齢者への個別的援助の効果と、個別的援助の他の介入と比べた際のインパクトを評価することである。

探索戦略

CENTRAL, MEDLINE, EMBASE, CINAHL, PsycINFO, ERIC, Dissertation Abstracts Internationalと様々なスウェーデンの専門家データベースを含む電子データベースを1980年から2005年6月まで探索した。参照リストをチェックし、関連研究を位置づけるべく、345の専門家、組織、政府機関および慈善団体にコンタクトを取った。

選択基準

永久的な障害のために日常生活における活動（例えば入浴や食事）の遂行や正常な活動への参加に援助を必要とする、コミュニティ在住の65歳以上の成人をこのレビューでは含んだ。参加者が研究群にあらかじめ振り分けられ、対照群のアウトカムが介入群のそれと同時に測定される、個別的援助の比較対照研究が含まれた。

データ収集と分析

二名のレビューワーによってタイトルと要約が調べられた。アウトカムに関するデータが引き出された。それぞれ異なった比較を行ったので、研究はメタ分析のためには結合されなかった。研究はバイアスの可能性を考慮して評価された。選択された研究について、結果とバイアスの潜在的源泉が提示されている。

主な結果

1642名の参加者を含む4つの研究によって次の3つの望ましい比較が行われた。(i) 個別的援助対普段のケア、(ii) 個別的援助対老人ホーム、(iii) 個別的援助対「クラスターケア」である。ひとつが無作為であり、3つが非無作為であった。概して個別的援助は他のサービスに比して好まれていたが、他のケアモデルを好む人々もいる。個別的援助が特定のサービス受給者とケア提供者にとっては何らかの利益になることがこのレビューによって示されている。有料の援助はおそらくインフォーマルケアの代わりになるだろうが、代替案より政府に負担をかけるかもしれないのに対し、サービス受給者にかかる負担は今のところ不明である。

レビューワーの結論

本分野における研究は限定的である。個別的援助は、そのサービスが実施されていない場所においては特に、費用がかかり組織化するのが困難である。新たなプログラムを実行する際、サービス受給者は様々な形の援助に対してランダムに割り当てられうる。主唱者は様々な理由により個別的援助を支持するかもしれないが、個別的援助のどのモデルが最も効果的で効率的かを決定するためには、さらなる研究が必要であると、本レビューは示している。